

第三次中間報告書の概要

2004年12月7日
評価専門調査会

第二次中間報告書(2004年9月)

■ IT戦略達成に向けた目標と施策の体系化提案

- ・民間のカイゼン手法を応用
- ・実現したいこと(戦略目標)、取り組むべきこと(成果目標)、取り組むべきことを阻む要因、突破するための「施策」を体系化



IT戦略達成のために欠けている施策の明確化

■ 指標の考え方を提示

成果目標

成果指標(利用者視点での評価指標)

例:実際に電子申請を利用することで、時間とコストが削減できたか

IT利用環境指標(サービス提供者側の評価指標)

例:誰でも365日24時間電子申請が行なえる環境が実現できているか

■ 分野別の評価

- ・2分野について、目標と施策を体系化し評価

IT人材、電子政府・電子自治体

今回の報告

■ 2005年までに目指すべきこと

- ・評価専門調査会は下記2点であると考えている。
 - ITを利活用するためのインフラや制度の整備において、世界最先端となっていること
 - ITを利活用して「元気・安心・感動・便利」社会を発展させるメカニズムが軌道にのっていること

■ 医療を例に具体的な評価プロセスを提示

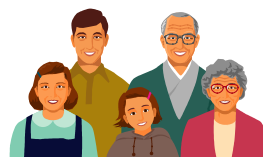
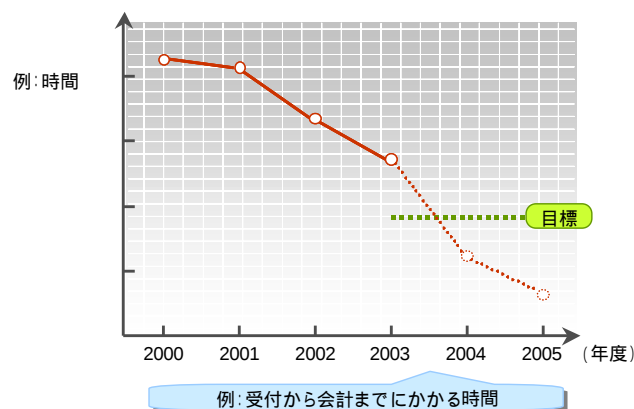
- ・戦略目標(実現したいこと)に向けた取り組みを俯瞰
- ・望ましい成果指標の検討(時間・コスト・質)
- ・取り組みについて重要性、緊急性、即応性を判断
- ・指標や取り組みに基づき改善策を提案

■ 指標設定と2005年に向けての提言

- ・e-Japan戦略 「実現したいこと」達成に向けた課題整理
- ・「IT利用環境指標」、「成果指標」の具体例を提案
- ・IT戦略の節目の年である2005年に向けて、早急に取り組むべきことを提言(e-Japan重点計画-2004の成果目標の再整理を含む)

■「実現したいこと」～e-Japan戦略より

生涯にわたる健康状態を国民自ら把握し、健康増進に役立てるための総合的なサービスが提供される体制を整備する
複数の医療機関での継続的治療が受けられ、適切な医療機関を選択できるなど、患者基点の医療体制を整備する
医療機関における各種の重複を削減することにより、医療機関の経営効率と医療サービスの質を向上させる
診療報酬請求業務の効率化及び合理化を進めることにより、医療機関のキャッシュフローの改善を図る
ITを活用した山間僻地・離島等への遠隔医療サービスを提供する



利用者視点

達成状況を計測



環境は整ったか？

例：電子カルテの導入率

例：遠隔医療導入率

例：ホームページ開設率

例：診療報酬請求書の電子化率

例：オーダリングシステム導入率

【成果指標案の例】

自分の過去の診療記録(検査・診療等)を電子的に参照する患者数

電子紹介状を受けた患者数

患者の受付から会計までにかかる時間

診療報酬請求業務と審査支払業務の時間・総費用

山間僻地等で遠隔医療を受けた患者数

【IT利用環境指標案の例】

電子カルテの普及率

医療機関のホームページ開設率

医療オーダリングシステムの導入率

診療報酬請求書の電子化率

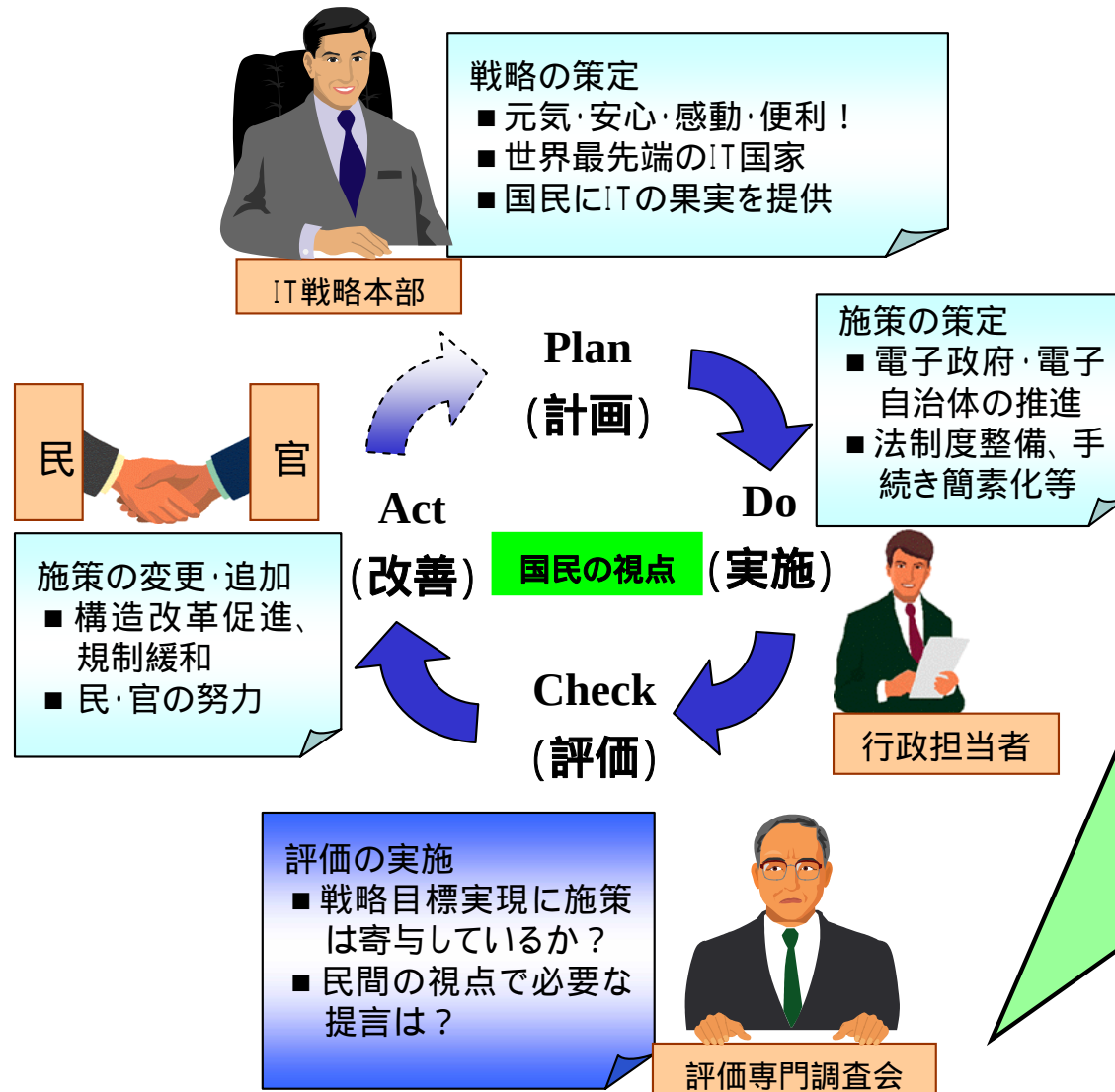
遠隔医療導入率

課題の整理と2005年に向けての提言

テーマ	課題の整理	2005年に向けての提言
診療報酬 請求業務	・93.3%が電子的に作成されながら、紙出力や再入力が多く行われている ・紙の総量は5年分で400万箱と思われる	・電子化に向けたインセンティブの導入
電子カルテ	・2006年度普及率60%を目標としているが、「電子カルテ」導入による成果が不明確 ・システムの相互運用性が効果発揮に必須	・利用者視点での目標の再整理 ・システムの相互運用性の確保
遠隔医療	・医師の無医村往復などで非効率な現状 ・遠隔診療が認められないケースもある	・離島・山間等へのブロードバンド環境整備を促進
情報提供	・(財)日本医療機能評価機構などの例はあるが、国民が有用な医療情報にアクセスする環境は十分とはいえない	・情報公開のための環境整備や情報収集機能育成に資源投入
医療システムの相互運用性	・標準化が進んでいるものの、不足感がある ・標準化対応システムを医療機関が導入することへのインセンティブが欠けている	・標準化の加速 ・標準対応システムを導入することへの支援

基本方針

・「世界最先端IT国家になったかどうか」の判断に資するための報告を、2005年3月にIT戦略本部に提出する



■ IT戦略本部へのお願い

- ・「医療」同様、他の分野についても取組みの体系化と成果目標の再整理を実施
- ・妥当性や計測可能性を検討し、指標の最終的な確定
- ・成果指標のあり方を含めた検討、評価体制の整備

■ 次回報告(2005年3月頃)

- ・2つの指標で「世界最先端」計測の準備
- ・今回の評価の枠組み(指標設定・課題整理・取組むべき事の提言)に基づき、残された課題について評価を行う